

### 今月の便り

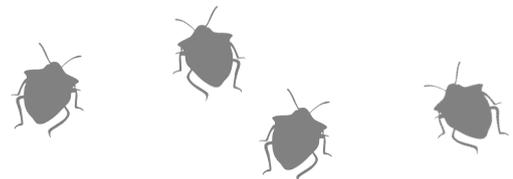
#### クレマチスのお手入れ

クレマチスの品種は多様です。この季節、早咲き品種パテンス系の大輪の花は花も終わり、枝になっていると思われます。品種にもよりますが、切り戻しをするとお盆過ぎぐらいにはもう一度開花を楽しむこともできます。ビチセラ系の新枝咲きについては、たくさんの花で目を潤してくれたことと思います。これも7月中旬に切り戻すと、秋にもう一度間に合うような感じに咲いてきてくれます。旧枝咲きは来年に向けて枝を残しておきましょう。新旧両枝咲きは少しの枝を残しておいて、そこから伸びた枝に花がつかます。新枝咲きは株元から新しい枝が出てきて咲く品種です。最近では品種の改良が進まれているので、病害虫に強い株ができています。うどんこ病などの悩ましい症状から改善されて気持ちも爽やかになるので、新しい品種を取り入れることも大切です。病害虫の予防は、早朝など気温の低い時に散布しましょう。日中はお日様の暑さで逆に葉焼け現象も注意が必要です。アブラムシが茎につき、アリが甘い汁を餌にする事もあるので見回り点検と早めの対策も必要です。(たかはし)

#### カメムシ

電話相談の中に今年が多いと言われているカメムシに関する質問がありました。自宅のノイバラの枝の先端が何かに食害されて茎と葉脈だけになったというのです。周りにたくさん細かいカメムシらしき虫がいるけれど、カメムシに葉を食べる種類がいるのかという質問でした。結論から言いますと、カメムシは種類によっていろいろな野菜や植物につきますが食べることはありません。口吻を使って樹液を吸汁するのです。また、細い体型のサシガメという種類は樹液ではなく虫の体液を吸う種類もいます。今回の質問者のバラの葉が無くなるほどの食害はカメムシではなくチュウレンジハバチではと推測をお話しました。さて、植物に着くカメムシの被害は野菜や果物であれば深刻です。吸われたところの水分が抜けて見かけだけでなく食味も落ちるのでから。家庭菜園程度なら防虫ネットをかけてください。少ないならばカメムシを見つけたらペットボトルの口を近づけて中におとすか、逃げる時下に落ちる特性を利用して枝をゆすって地面に落ちたところを捕まえましょう。私は園芸植物でアリッサムにナガメというカメムシの幼齢幼虫の大群に葉をボロボロにされた事があります。ナガメはアブラナ科にだけつくカメムシですが、柔らかく小さな葉を暑くなる7月頃吸汁されれば、植物にとってひどいダメージになります。手遅れになる前に早めに見つける事が大切です。

(きのした)

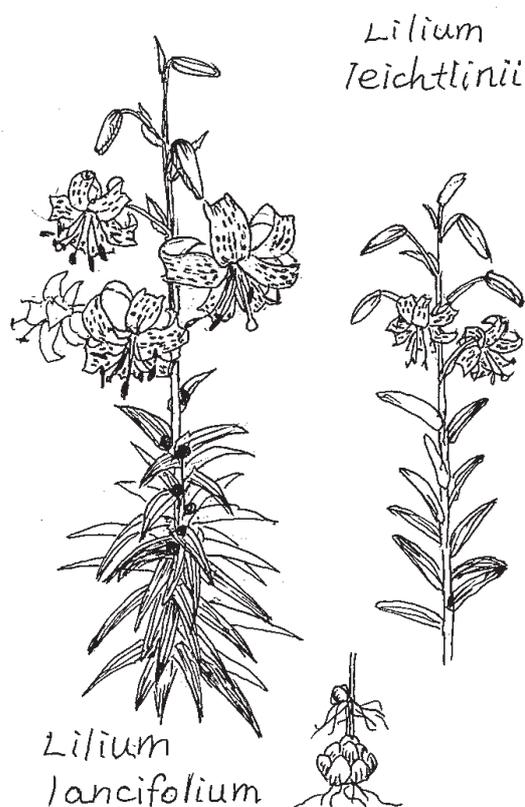


\*「今月の便り」 次ページへつづく⇒

## オニユリ

オニユリは中国から朝鮮半島南部を原産とするユリ科の多年草で食用として渡来したものが野生化したといわれています。日本各地に見られ数多いユリの中でも、ひときわ大きな花を咲かせるためオニユリ（鬼百合）と名付けられたといわれています。開花は夏で、茎の先端から伸びた花茎に4～20輪が咲きます。オレンジ色をした6枚の花弁の内側には黒い斑点模様があり花弁は外側に反り返り、花は下から順に下向きから横向きに咲きます。葉の付け根付近にはムカゴと呼ばれる黒い芽ができ、これが落ちると根を出して増えていきます。オニユリは種ができず、繁殖はこのムカゴか鱗茎の株分けによります。コオニユリは北海道～九州に分布するユリ科の多年草でオニユリによく似ていますが花はオニユリより小さいのでコオニユリと呼ばれます。オニユリは海岸～山地、平地でも育ちますが、コオニユリは山野の湿原や溪流沿いの崖地などに分布します。日本に育つのは在来種ですが、東アジアにも分布します。コオニユリは種子で繁殖しムカゴはつけないのでオニユリと見分けられます。百合根はオニユリ、コオニユリ、ヤマユリ、カノコユリの鱗茎のことを言いますが、北海道で食用として栽培される百合根のほとんどはコオニユリの改良品種です。

(いとう)



予告

# ローズフェスタ 2025 秋

9月20日（土）～10月5日（日）

山の紅葉とバラのコラボ

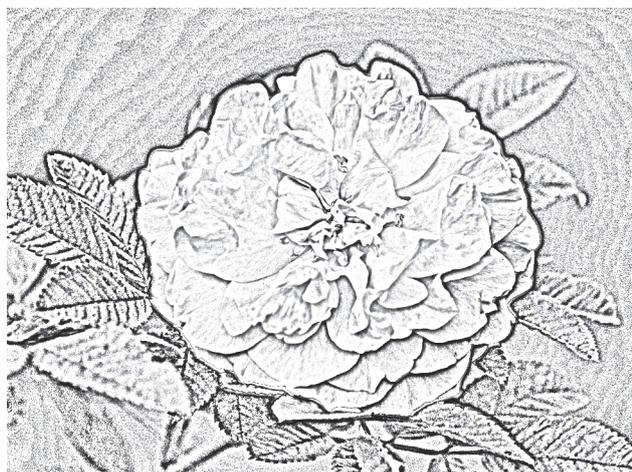
香り豊かな秋のバラを愛でませんか

イベント情報詳細は HP/SNS にて

# ひとつき ひとバラ



文： 曾 根 浩 太  
(いわみざわ公園バラ園)



## 第二百二十八回

ハイブリッドルゴサローズ

## マーティンフロビッシャー

Martin Frobisher

作出国：カナダ

作出者：Dr. Felicitas Svejda

作出年：1961年

ハーディネスゾーン：Z2

返り咲き

交雑：Schneezweg × Unknown

夏が暑い！暑すぎますね！7月は道内で最高気温40℃の予報がでた地域もあつたり、北海道の夏、本当に暑くなってきました。北海道でもバラを選ぶ際に耐寒性だけではなく、耐暑性を考えなきゃいけない時代がもうすぐくるかもしれません。今回は暑い夏とは逆、カナダの寒い冬でも平気な耐寒性を持つマーティンフロビッシャーを紹介したいと思います。マーティンフロビッシャーはハマナシの血が流れているハイブリッドルゴサローズで、当園では駐車場からイングリッシュガーデンに行く道の途中に植栽されています。花は薄いピンク色で、大きさは小輪になります。ライムグリーンの葉はしわの特徴から、まさにハマナシの葉だという雰囲気です。樹形はハマナシとは似ていなく枝がまっすぐに伸び、高さ185cm、幅120cmまで成長するので、大型のバラになります。耐寒性は抜群ですが、黒点病には弱く、かかるとかなり葉を落としてしまいます。地下茎で増えやすいのも特徴の一つです。枝は結構しなやかで、遠目から咲いているところを見ると薄ピンクの花と明るめの葉がマッチして、優しい雰囲気を出してくれるバラです。

Explorer Series Collection と呼ばれるコレクションの一つで、Explorer とは探検家という意味があります。マーティンフロビッシャーも人の名前、イギリスの航海者、私掠船の船長、海軍等をしてきた人みたいです。私掠船というのは敵国の船から積み荷等を奪っていい許可をもらった船のことで、簡単にいうと国公認の海賊船のようなもので、マーティンフロビッシャーは、かなり有名な海賊だったようです。航海者としては北西航路の航海をしており、3度カナダ・バフィン島まで訪れたそうです。ただ、航海よりも金の採掘に熱中しており、そしてそれが金ではなかったというなんとも残念なエピソードも持っています。バラから受ける雰囲気と由来となった人物のイメージがなかなか離れているなと思いました。交配にはシュネーツヴェルグがいますね。白花のハイブリッドルゴサでこちらは樹形も含めてハマナシと似ているバラです。あんまり似ていない親子で、交配って面白いなと思います。どちらもバラ園にあります。この後はどちらも秋までなんとなく咲いているという状態なので、親子どちらも見ていただけたらなと思います。

## 今月の市民園芸講座のご案内



●8月30日(土) 10:00～12:00 ばらゼミ⑥  
バラの増殖と香りの話

参加費：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈 さん  
持ち物：筆記用具

●9月7日(日) 13:00～15:00 飾って楽しい植物画  
～バラ園の樹や植物を描こう～

材料費：200円 定員 10名 講師：木下 京子 さん  
持ち物：筆記用具、スケッチブック、水彩画材

※お申し込みは講座開催月の1日9:00～電話で受付しております。

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話:0126-25-6111 ホームページ:<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までにお申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。